

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500978		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	〒373-0806 群馬県太田市龍舞町5655		
自己評価作成日	令和6年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和6年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが緩和され面会や外出が増えてきて職員の感染はあったが、入居者様へは誰一人として発病される方はいませんでした。衛生面と食事に栄養バランスを出来るだけ取り入れて過ごして頂けるように力を入れてきました。コロナ以外の感染にも注意し、体調の思わしくない方は念のためにお部屋で過ごして頂き安全を提供するためには念のためを実施して平和な日常を過ごせるようにしてきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍においては法人の決められた感染対策に取り組み、利用者から感染者は出ていない。これは職員の努力によるものと利用者や家族による協力の結果である。利用者はご自分の今日の様子がわかるしっかりした顔付で、身なりも整えられ、認知症ではあるが自立度が高い様子がうかがえた。特に排泄に関しては自立者が多く職員もトイレでの排泄支援を心掛けている。日中のみならず、夜間帯でもトイレ誘導をして、昼夜同じ支援をしている。排泄が自立していると本人もプライドが保たれ、そのプライドが訪問した時の自信のある生き活きとした表情から察することができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に管理者、職員で理念を唱和し、理念を共有して実践できるようにしています。	職員は退職者が多かったため新規採用者も多い。既存の理念は、職員会議時に唱和する機会を設けて確認しているが、管理者は検討が必要と考えている。	現在の職員で理念について意見を出し合って、自分たちが作り上げた新たな理念のもとで支援に取り組むことを検討してはいかがか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練などの行事参加を近所の住民に呼びかけたり、近くにある大泉高校の先生が野菜を売りに来た時には玄関先にて対応しています。	コロナ禍前は地域の方々が協力的なホームであったので、今後も地域住民に避難訓練の呼びかけやホームの草むしりの協力の依頼等相談中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かえでの区域の公園の清掃活動に参加したことがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様一軒づつご連絡して周知してもらえるように努めます。	今年度1回は書面開催であったがその後は対面で行い、行政・地域代表・家族の参加を呼び掛け、事業所の活動状況や行事報告、終末期やハザード状況等のトピックをあげ意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の疑問点はその都度、市町村の担当に相談しています。	法人の担当者が行政への報告や相談を担っている。介護保険の更新は家族が行っている。認定調査の立ち合いは家族の希望で事業所で支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で定期的に学び利用者様に対して拘束しないように取り組んでいます。	玄関は常時施錠をしセンサーマットも敷いている。「ちょっと待ってて」等スピーチロックに関しては、理由を説明することもある。また、ホーム長が指導したり、虐待・身体拘束に関する学習会をしている。	玄関の施錠及びセンサーマットの活用については、常態化しないケアの工夫を改めて話し合ってほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で定期的に学び、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で学ぶ場を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、分かり易く丁寧に説明しています。改定時はお電話や直接説明し理解を得られようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ご家族様来苑時は積極的に声掛けし易い環境を作るようにしていきます。	利用者からは、日常的に食器の記名等で意見が出ている。家族からは、面会時に意見・要望等聞いている。意見は申し送りノートに記入し共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、要望を話しやすいように個別で聞く機会を作っています。	月に1回職員会議でケアの共有や利用者の生活ぶりについて意見を出し合うが、新規採用者が多いため職員目線になることもあり、利用者への対応等について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年1回行い、個別の評価、面談を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ジョブメドレーを使用して動画で学習し問題を解いて理解力を上げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後は他の施設の見学の機会があれば同じサービスでも違った方法を行っていたりすれば良い学習機会となると思います。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談しご本人が来れない時には、管理者がご本人様を訪問して相談にのれるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様の要望や不安を聞くために面談し、入所後も相談してもらえるようにな声掛けをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にはご本人様・ご家族様の要望に添えるよう、必要な支援の説明や紹介が出来るように努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と適切なコミュニケーションを多くとれるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との適切なコミュニケーションを多くとれるように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきたことを生活の中に取り入れるように心がけています。	友人の面会があり、個室対応をしている。コロナ禍であっても面会方法を工夫し、家族等との関係性の継続を支援している。パーマをかけたり、運動やかかるた、洗濯物畳み等の家事を続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合えるように、時には仲介します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も要望がある時は対応する事を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族様の希望をもとに毎月カンファレンスをにて話し合い、希望に添えるようにしました。	管理者がケアマネジャーを兼務しており、雑談の中や職員からの聞き取りで意向等確認している。家族からは、電話にて状態報告時や利用料支払い時等に希望を確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを多くとるように心がけ、話しやすい環境を作るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りをしっかり行い、小さな変化にも対応できるよう現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の要望をもとに、カンファレンス、日々の申し送りにて意見交換を行い、支援に反映出来るようにしました。	職員とケアマネジャーとで月1回モニタリングを実施している。介護計画は、アセスメント及び担当者会議と共に3ヵ月毎に見直しを行っている。また、状態変化時は随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	正確な記録をし、情報共有をして支援を実施し、介護計画の見直しに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望を把握し、対応できるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様や介護タクシーなどで外出をされたり、ご利用を希望されている方への支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の要望を把握して主治医、訪問看護と24時間適切な対応・医療がうけられるようにしています。	契約時にかかりつけ医の受診について説明し、選択してもらい、今は全員が事業所の協力医で月に1～2回の往診がある。整形外科等の他科は家族支援である。歯科も必要時に訪問診療が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問、電話にて24時間対応で連絡を取り、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の現状把握に努める為、病院、ご家族様と情報交換をします。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期にご家族様、主治医、看護師、管理者、ケアマネと話し合い場を設け、職員間でも情報の共有をしています。	終末期対応については入居時、また段階を踏んで重要事項説明書の中の対応指針に沿って説明している。希望に沿って医師や家族、職員等関係者で話し合い共有している。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議にてマニュアルの再確認をします。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署より総合避難訓練の指導を受け、近隣の方にも参加してもらえるように呼びかけています。	自主訓練として5年1月、2月に日中想定消火・通報・避難訓練を実施。6年2月に2回総合訓練を実施した。備蓄として水・食料を3日分用意している。	災害時に利用者の特徴をつかみ、安全に避難できるように自主訓練を増やして避難技術を身に付けてほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心を傷つけることのないように、適した声掛けを日々行うようにしています。	本人の気にしていること、身体的な特徴等に配慮し、声のトーンを変えたり、利用者間では受け手が気づかないように視界に入れない配慮等、利用者誰もがホーム内で気持ちよく過ごせるように職員間で共有している。	異性介助時等では、都度声をかけたり、本人が選択できる場面を提供してはいかがか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解しやすいように説明し、洗濯できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重して支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の意見を取り入れて、ホーム内でも身だしなみやおしゃれが出来るように支援していきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理のない範囲で食事の後片付けを行なっています。	週に3回配食サービスが届きその他は職員が利用者から聞き、献立を作っている。時期の行事食や敬老会、ハロウィン、焼き芋会等のお楽しみを提供している。飲み物は好みを聞いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合う食事量、食事形態にて提供し、食事量、水分量は職員が確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜間は義歯をお預かりし洗浄しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の排泄パターンを参考し、トイレ誘導や声掛けを行い、失禁を減らせるようにしています。	トイレでの排泄を基本とし、チェック表に基づいて声掛けや誘導を行い、自立者は見守り、排泄後に確認をしている。個別に夜間も日中と同様な支援で見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し乳製品や食物繊維の多いメニューを提供しています。無理のない範囲で体操などに参加していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けにて希望を伺い、無理のない範囲にて入浴しています。	入浴はほとんど週2回となっている。毎日拒否する方もいて午前と午後職員の配置もあるが本人のタイミングを見計らい声をかけている。また利用者に負担にならないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や、必要性に応じて安心して休めるように声掛け誘導をおこないます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬専用のファイルを作り、職員全員が把握できるようにしました。変更時は随時申し送りをするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内でも飾り物の作成やレクリエーションを行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響が以前より緩和されているので、うがい手洗い等を行い、ご本人様の希望に添えるようご家族様と連絡を取り合い計画しながら実施しています。	コロナ禍の外出制限のまま、自粛の取り組みが継続されており日向ぼっこ程度で、事業所としての日常的な散歩や外出は実施していない。	外気に触れる機会を増やすことで気分転換や発散にもつながるため、外で過ごす時間や個別での外出の機会を増やしてはいいかがか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを希望されている方には少額を居室にて保管してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望がある時はいつでも電話が出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季により飾りつけを代えて、季節を味わえるように支援しています。	共用空間は換気対策で気になる臭いもなく清潔である。ソファや椅子が置かれ、好きなテレビ番組を見て過ごしている人もいる。時期の作品が掲示されている。カーテンの開閉や戸締りを利用者に手伝ってもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルにならないように利用者様の空間が居心地の良い場所として好きに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用するものは使い慣れた馴染みのあるものを持参していただけるように声掛けをしています。	居室には使い慣れた物を自由に持参してもらえる様伝えている。テレビや身の回り品、家族の写真が飾られている。遺影にお水もあげられている。不快な臭いは無い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物などは置かないように安全管理に努めています。		